

大阪外国語大学グリークラブ

創部95周年
記念演奏会



95

2022 / 58日

浜離宮朝日ホール

13:00開場 / 13:30開演

主催：大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

後援：咲耶会東京支部

(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

95年のあゆみ

大阪外国語学校（大阪外国語大学）グリークラブは、開校（1922年11月）から3年半後の1926年4月に部員20数名で誕生しました。創部翌年の宝塚音楽協会主催の第1回合唱競演会で3位入選、1929年にクラブソングGAIGO WILL SHINE TONIGHTが誕生するなど、創部当初から活発に活動しています。1931年には作曲家の清水脩（1932年フランス語科卒）が第5代指揮者に就任しています。

戦時中の活動記録は有りませんが、終戦の翌々年（1947年）には活動を再開しています。1957年に第1回演奏会を開催し、以降1998年まで毎年演奏会を開催（計41回）ただけでなく、演奏旅行やジョイントコンサートなどさまざまな演奏活動を行っています。しかし、大学における男子学生の減少もあり、グリークラブは1998年に活動休止のやむなきに至りました。

現役のグリークラブは活動を休止しましたが、外語グリーの歴史と伝統を繋ぎ続けたいとのグリーOB有志の強い思いで、東京（1995年）と大阪（2001年）にOB合唱団が結成され、指導者に林誠（1973年～）、小貫岩夫（2002年～）、坂井美樹（2013年～）の各先生をお迎えし、創部80周年（2006年）、85周年（2011年）、90周年記念演奏会（2016年）の主催、大阪男声合唱団など他団体とのジョイントコンサートの開催、東京都合唱祭や男声合唱フェスティバルへの出演などのさまざまな演奏活動を続けています。2018年には創部90周年を記念して『大阪外国語大学グリークラブ創部90周年記念誌』を発行いたしました（<http://oufs-glee-90th.heavy.jp> をご参照ください）。

大阪外国語大学は2007年10月1日に大阪大学と統合しましたが、私たちOB合唱団は現在でも「大阪外国語大学グリークラブ」の名を掲げて活動を続けています。グリークラブOBに加え、別の環境から新たに加わった仲間たちが現在のグリークラブOB合唱団を構成していますが、外大らしさを保ちながらも、さらに一步上を目指して練習に励んでいます。

4年後の2026年には創部100周年という大きな節目を迎えます。OB合唱団のメンバーだけでなく、外語グリーOBの皆様方と100周年をぜひ祝いたいと今から楽しみにしています。



1946年11月
戦後最初の演奏（大阪外語創立26年記念文化祭）



1959年11月
第14回関西合唱コンクール（4位入賞）



1992年1月
第35回定期演奏会



2016年12月
グリークラブ創部90周年記念演奏会

ご挨拶

大阪外国語大学グリークラブ創部 95周年記念演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。
うございます。

1926年4月に創部したので実際には今年で創部96年となりますが、昨年11月に予定していたものを今日に延期した次第です。2020年1月上野奏楽堂での93周年記念演奏会の直後からコロナの影響で練習は全面的に中断しました。密閉・密集・密接の3密に該当する合唱にとってまさに致命的でした。

他の合唱団も同じような苦境にあったと思いますが、同年5月からオンラインを使って練習を再開。ITの進歩は誠に驚くべきものがあります。ただ集合練習とは勝手が違い、楽譜の音取りがやっとでした。また隣近所に気を使い、家人に白い目で見られながらも細々と家で声を出したものです。同年10月からは出てこられるメンバーで集合練習を徐々に始めました。手指消毒はもちろんのこと、それまで使っていた練習会場より倍くらい広い施設をメンバーで手分けしながら確保して人と人との間隔を十分に取り、練習中は二重にマスクを着用、30～40分ごとに窓を開放して空気の入替えと室内の二酸化炭素濃度を測定しながらなど精一杯の対策を取りながらこれまで練習を続けてきました。

今日ようやくここにたどり着きましたが、久しぶりに大半のメンバーがそろってステージで歌うことの幸せをかみしめたいと思います。

最後になりましたが、本演奏会開催にあたりご協力をいただきました関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団(東京)
幹事団代表 永谷 勉

コロナ禍…大変でしたね。あの旧奏楽堂での演奏会の後、あれよあれよという間に練習中止。どうなることかと途方に暮れました。見よう見まねで始めたZoomでの練習も忘れられません。少人数でスタートした対面練習。ビニールのブースの中で暑さと格闘しながら声を合わせた時の感動。人数が増えてきたら、今度は練習場の確保が大変でしたね。尽力くださった方々に感謝です！でもやっぱり忘れられないのは、苦しんでいた私たちを皆さんがいろいろな形で支え助けてくれたこと。本当にありがとうございました！そして今日の演奏会！決して忘れないでしょう。

指揮 小貫岩夫

「大らかさ」これこそが大阪外国語大学グリークラブOB合唱団の美德の一つです。母校への愛情深く、しかも、一緒に歌おうよと、外大以外の方々にも合唱の輪を広げ大いに楽しむ。そして、コロナ禍の2年間、細心の注意を払いながらも、休むことなく合唱の練習に励んでこられました。どうも肝が太いのです。他の団体がどこも活動してないにも関わらず、皆がこの状況下でオンラインや対面でなんとか練習を続けようと思う、その情熱がまた素晴らしいです。だからこそ、歳を重ねても後退せず、むしろ若々しくなった音楽を本日は楽しみにしております。95周年、本当におめでとうございます。

指揮 坂井美樹



PROGRAM

Gaigo Will Shine Tonight / Varsity



第1ステージ

黒人霊歌 指揮：坂井美樹

1. Deep River

編曲：H. T. Burleigh

2. Little Innocent Lamb

編曲：Marshall Bartholomew

3. Crucifixion

編曲：安藤雅之（グリークラブOB 1969年英語科卒）

4. De Animals a-Comin'

編曲：Marshall Bartholomew

5. Soon Ah Will Be Done

編曲：William L. Dawson



第2ステージ

J-POP 指揮：坂井美樹、小貫岩夫 ピアノ：多田聡子

1. 見上げてごらん夜の星を

作詞：永六輔 作曲：いずみたく 編曲：秦実

2. サボテンの花 作詞・作曲：財津和夫 編曲：信長貴富

3. 時代 作詞・作曲：中島みゆき 編曲：信長貴富

4. 乾杯 作詞・作曲：長渕剛 編曲：源田俊一郎

5. ありがとう 作詞・作曲：水野良樹 編曲：三沢治美

(休 憩)





第3ステージ

オペレッタの散歩道

ソプラノ：坂井美樹 テノール：小貫岩夫 ピアノ：多田聡子

1. 『こうもり』より「チャールダーシュ」
訳詞：角岳史 作曲：Johann Strauss II.
2. 『こうもり』より「時計の歌」
訳詞：角岳史 作曲：Johann Strauss II.
3. 『微笑みの国』より「わが心のすべてを」
訳詞：角岳史 作曲：Franz Lehár
4. 『微笑みの国』より 二重唱「誰がこの心を愛でまよわせたの」
訳詞：角岳史 作曲：Franz Lehár



第4ステージ

ヨーロッパ名曲集

指揮：小貫岩夫 ピアノ：多田聡子

1. オンブラ・マイ・フ (歌劇「セルセ」より)
作曲：Georg Friedrich Händel 編曲：福永陽一郎
2. 理想のひと
作詞：Carmelo Errico 作曲：Francesco Paolo Tosti 編曲：北村協一
3. 僧侶の合唱 (歌劇「魔笛」より)
作曲：Wolfgang Amadeus Mozart
4. 二人の^{てきだん}擲弾兵
作詞：Heinrich Heine 作曲：Robert Schumann
5. 巡礼の合唱 (歌劇「タンホイザー」より)
作曲：Richard Wagner

本日の演奏会のWebアンケートにご協力ください。





1 黒人霊歌 Negro Spirituals or Black Spirituals

19世紀に生まれた旧約聖書に歌詞や題材をとったアメリカ黒人のキリスト教的宗教歌。アメリカ黒人の歴史と音楽性が強く反映している黒人音楽の最も古いジャンルであり、民謡の一種であり、ゴスペル、ブルース、ジャズなど様々な音楽の源となっています。かつてはニグロ・スピリチュアルと呼ばれていましたが、現在ではブラック・スピリチュアルと呼ばれています。もともとは自分たちで歌うだけのものでした。白人が興味を示し、黒人を招いて聞くようになってからは聴衆の好みに反応して変化していきました。録音機材がない時代の黒人霊歌は19世紀の人々といっしょに消えるはずでしたが、口承文化として現代に生きのびて、アメリカ社会のどろどろした現実と人の心の哀しさ、醜さを映し出しています。望みは一つだけ「早く死にたい」。苦難を負っているとは言うけれど、決して具体的に言わず、あきらめの言葉さえなく、喪失の歌が多いといえます。別れを歌うのではなく、「いなくなった」と彼らは言います。彼らは「家（ホーム）」を求めています。安心できる家、孤独から免れる家、魂の家である天国、終わりのない休息がある家。そういう「ホーム」をひたすら求めていて、「もう帰るよ」「もうじき帰る」「きっと帰れる」と歌います。強制労働させられながら仕事歌として口ずさんでいたもの、隷属状態にある黒人の詩と歌声が、「黒人霊歌」の原点です。

Deep River (深い河)

故郷はヨルダン河の向こう岸
すべてが平穏な約束の地へ
ヨルダン川はヨハネがキリストに洗礼を授けた場所
深い河 故郷はヨルダン河の向こう岸
深い河 主よ 河を渡り 集いの地へ行かん
福音の恵みを求めて すべてが平穏な約束の地へ

Little Innocent Lamb (いたいけな子羊)

子羊 子羊 いたいけな神の子羊
私は神様に一生お仕えます
偽善者 偽善者 奴は何をするかと言うと
(私は神様に一生お仕えます)
私の悪口を言ったり お前の悪口を言うのさ
(私は神様に一生お仕えます)

Crucifixion (キリストの磔)

救い主であるイエス・キリストが人類を
その罪から救うために 身代わりになって磔になった
キリストはつぶやきのことばさえ発しなかった

De Animals a-Comin' (動物たちがやってくる)

神が人類の墮落を怒って起こした大洪水に際し、最

初の人アダムから10代目にあたり正義の人と神に認められていたノアは箱型の大舟をつくり、家族と雌雄一對のすべての動物を引き連れて乗り込み、そのため人類や生物は絶滅しなかったと旧約聖書の創世記にあります。箱舟がたどり着いた山がArarat。アララト山は301年キリスト教を国教とした最初の国アルメニアにあったが今はトルコ領となっています。

Soon Ah Will Be Done (もうすぐ終わる)

アフリカからアメリカに強制移住させられたアフリカ人たちが耳を頼りに覚えたいわゆる黒人英語には彼ら独特のなまり・発音がありました。この曲にもそのなまりが多用されていて冒頭の歌詞「すぐにこの世の苦しみは終わる」は…

原詞：

Soon Ah will be don'a-wid de trouble ob de worl'

本来：

Soon I will be done with the troubles of the world

…となっています。本来の文法的・発音的に正しい英語だとこの歌独特のリズムとテンポは生まれてこないでしょう。





2 J-POP 僕たちの^{みちのり}道程

このステージでは、今日ステージに立つ僕たちが現役の学生であった1960年代やそれ以降から辿った道程を、それぞれの時代を彩ったJ-POPとともに振り返ります。

※ここでは時代を追って曲目をご紹介しますので、実際の演奏順とは異なります。演奏順については、3ページをご参照ください。

60年代：見上げてごらん夜の星を

今は貧しいが「そのうちなんとかなるだろう」（植木等「だまって俺について来い」）と楽観して夜空を見上げた高度成長期。街では歌声喫茶が人気、皆が一緒に歌うのが当たり前だった頃、1962年には僕たちも部員60名の大所帯。翌1963年に流行ったのがこの歌でした。元々は1960年の同名ミュージカル劇中主題歌で、「上を向いて歩こう」のヒットで人気絶頂の坂本九がカバー。キャンパスライフものどかで、1968年までは僕たちも部員数40名以上の黄金期でした。

70年代：時代

70年安保、学生運動激化と続く嵐で、のどかなキャンパスライフは失われ、僕たちも70年代前半には部員数30名を下回りました。対立と内ゲバで自滅した学生運動が70年代半ばのキャンパスに残したのは果てしない無力感、そんな1975年の世界歌謡祭グランプリ曲が中島みゆき歌唱のこの歌でした。「学生集会へも二人で出かけた」（バンバン『いちご白書』をもう一度）が、外語大の学生集会で実際に歌ったのが、挫折から復活への希望の歌「時代」でした。僕たちも同年一挙13名の新入部員を迎え、再起しました。

80年代：乾杯

長渕剛歌唱の「乾杯」は1980年の同名アルバムで発表の結婚する友人に長渕が送った曲。人生の新たな節目を迎える人への応援歌です。1979年からの大学共通一次試験により、僕たちもひとつの節目を迎えました。女子学生の比率が増大、80年代半ばになるとキャンパスは女子大のよう。1978年に44名まで盛り返した部員数は1983年以降二十数名に落ち込みました。「24時間戦えますか」（牛若丸三郎太「勇気の

しるし」）と日本がバブルに湧いた1988年、長渕剛は「乾杯」をシングルリリースしオリコン1位、僕たちも同年、なんとか30名まで押し戻しました。

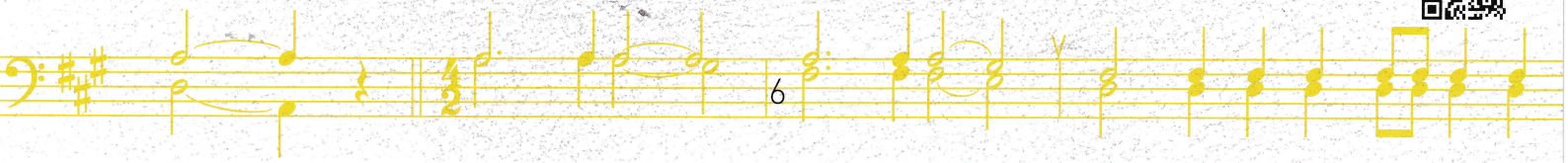
90年代：サボテンの花

元々1975年に財津和夫がリーダーのチューリップが出したこの曲を、財津自身が1993年に月9ドラマ「ひとつ屋根の下」の主題歌としてリメイク。同年、外語グリーの部員数は10名、翌年以降部員数は一桁、遂に1998年第41回定期演奏会でその歴史に幕を降ろしました。キャンパスに男声合唱が響く日常はなくなり、「何でもないような事が幸せだったと思う」（THE 虎舞竜「ロード」）。恋人が去っても、サボテンが花をつけたのは春が来たら再び歩き出すきっかけとなったように、僕たちも自分たちでのグリークラブ再生に歩き出しました。1995年、早くもOB合唱団（東京）がその産声を上げました。

21世紀：ありがとう

2001年にはOB合唱団（大阪）も誕生。2006年の80周年演奏会には全国からOB 82名が“いざ箕面”と外大がある大阪府箕面市に馳せ参じました。翌年、大阪外国語大学は大阪大学と合併、その歴史に幕を閉じます。それでも、OB合唱団は歩み続け、東京初の東西合同演奏会を開いた2010年、いきものがかり歌唱のこの歌はNHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の主題歌としてヒットしていました。今まで僕たちを支え応援してくれた皆様、今日会場にお越しの皆様、この歌でありがとうと伝えたいと思います。90周年演奏会は69名、93周年演奏会は53名、そして今日ご覧のとおり、僕たちの数は減ります。でも、僕たちの道程はここ迄と告げられたら、こう答えよう「僕は嫌だ！」（樺坂46「不協和音」）。

本日の演奏会のWebアンケートにご協力ください。





3 オペレッタの散歩道

創部95周年演奏会のお祝いとして、私たち合唱団の指揮者である小貫先生と坂井先生のお二人がオペレッタの名曲をプレゼントしていただきます。オペレッタは、「小さいオペラ」あるいは「軽歌劇」などと訳される楽しいオペラです。今回のステージで歌っていただく4曲は、ふたつのオペレッタで歌われるものですが、皆様が聴いたことのある名曲ばかりです。両先生の素晴らしい歌唱を存分にお楽しみください。

『こうもり』 オペレッタ『こうもり』は、1874年4月5日にウィーンのアム・デア・ウィーン劇場で初演されたヨハン・シュトラウスⅡ作曲のオペレッタの傑作です。

舞台はオーストリアの温泉地イシュル、時は1874年の大晦日、裕福な男アイゼンシュタインは、舞踏会の帰りに、酔っぱらった友人ファルケ博士を「こうもり姿」のまま道端に置き去りにします。このため、ファルケ博士は「こうもり博士」と呼ばれるようになってしまいます。ファルケ博士は、アイゼンシュタインの妻や彼女の元恋人と一芝居を打って、アイゼンシュタインを懲らしめるという喜歌劇です。

「チャールダーシュ」

チャールダーシュはハンガリーのダンス音楽で、ハンガリーの伯爵夫人に扮したアイゼンシュタインの妻ロザリンデが、「本当はハンガリー人ではないのでは？」と疑われたことに対して「音楽で証明する」として、「おおふるさと 素晴らしきところ そこでは太陽が明るく 輝く緑の森よ ほほ笑む野原よ」と歌います。

「時計の歌」

アイゼンシュタインの妻ロザリンデは、ハンガリーの伯爵夫人に扮して舞踏会に現れますが、アイゼンシュタインは自分の妻とも気づかず、「彼女もこの時計にきくと食らいつくだろう」と、彼のポケットから金縁の時計を取り出して、彼女を口説き始めます。ロザリンデも、「どこでこの可愛い時計を買われたの？」と愛嬌たっぷりに時計の美しさを讃えます。

『微笑みの国』 『微笑みの国』の作曲者であるフランツ・レハールが1923年2月9日に初演したオペレッタ『黄色い上着』を改作して、1929年10月10日にベルリンのメトロポール劇場で初演した全三幕のオペレッタです。

『微笑みの国』の舞台は、前半はオーストリアのウィーンで、後半は中国となっています。オーストリアの伯爵令嬢・リーザは中国の外交官・スー・チョン殿下とウィーンで出会い、結婚します。ふたりは中国に行きますが、中国の慣習で、スー・チョン殿下は4人の中国人女性との結婚を勧められ、殿下は苦悩しますが、最終的にはこの慣習を受け入れます。殿下はリーザを愛していますが、リーザはこの中国の慣習を受け入れることができず、中国を去っていくというストーリーです。

「わが心のすべてを」

4人の中国人女性との結婚を勧められて、断ることができず苦悩するスー・チョン殿下は、「わが心のすべてを」を歌唱しますが、スー・チョン殿下はこの歌の中で、4人の中国人女性と結婚することになってもしリーザに「愛している」と言って欲しいと訴えます。

二重唱「誰がこの心を愛でまよわせたの」

2幕で、スー・チョン殿下とリーザが歌います。中国に来てから、リーザは互いの文化の違いから不自由な生活を送ることになり、落ち込んでしまう。そんなリーザを励まそうとして、スー・チョン殿下は二人を結び付けた愛を呼び覚まし、愛のために生きようと歌います。





4 ヨーロッパ名曲集

このステージでは、ヘンデル、モーツァルト、シューマン、ワーグナー、トスティという日本でもよく知られている作曲家による名曲を演奏します。以下の年表に記されているようにこれらの曲は、絶対王政が終わり、啓蒙思想や産業革命に支えられた市民社会の誕生、国民国家の成立へと繋がる時代に作曲され、現在でも歌い続けられています。

オンブラ・マイ・フ

(Ombra mai fu 今までなかった木陰)

歌劇「セルセ」の第1幕冒頭で歌われるアリア。プラタナス（スズカケノキ）の木陰の心地よさが歌われています。日本ではソプラノ歌手キャスリーン・バトルによる歌が、1986年にニッカウキスキー TVCMで使用され有名になりました。

理想のひと (Ideale イデアール)

イタリアの音楽教師でもあったトスティは多くの声楽曲を作曲し、美しい旋律が現在でも多くの人に愛され、音楽の教材としても使われています。ピアノ伴奏が刻む3連符に乗って理想の人を夢想しつつ徐々に熱を帯び、「帰って来て微笑んでくれ」と結びます。

僧侶の合唱

(Chor der Priester コア・デア・プリースター)

モーツァルトが35歳で亡くなる1791年に初演された歌劇「魔笛」の第2幕で、僧侶たちがエジプト神話に登場する最高神イシスとオシリスを讃えつつ、登場人物であるタミーノの将来を祝います。

二人の擲弾兵

(Die beiden Grenadiere ディー・バイデン・グレナディーレ)

ナポレオンのロシア遠征(1812-1814)で捕虜になり、長年の抑留の後ドイツ経由でフランスへ帰国する2人の哀れなフランス兵が、皇帝が捕らわれたことを知り嘆きつつも、死んでも復活して皇帝を守るのだと誓います。終末部にはフランス革命賛歌「ラ・マルセイエーズ」のメロディが使われています。

巡礼の合唱 (Pilgerchor ピルガーコア)

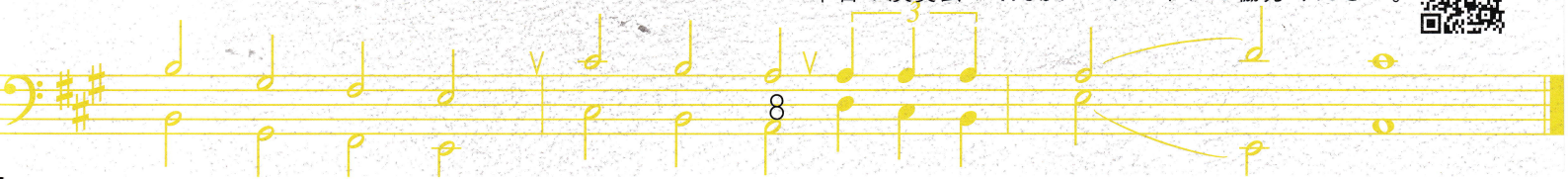
ワーグナーの初期の歌劇作品である「タンホイザー」の終幕で、ローマでの巡礼を果たした巡礼者たちが、故郷に戻れた喜び、贖罪者(巡礼者)に対して恩寵を与えてくれた神を讃えて歌います。

関連年表

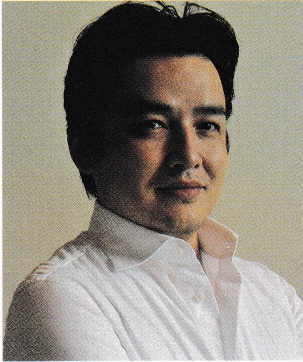
- 1707年：大ブリテン王国成立
- 1738年：オンブラ・マイ・フ(初演)
- 1789年：フランス革命
- 1791年：僧侶の合唱(初演)
- 1814年：ナポレオン失脚
- 1840年：二人の擲弾兵(作曲)
- 1845年：巡礼の合唱(初演)
- 1861年：イタリア王国成立
- 1871年：ドイツ帝国成立
- 1882年：理想のひと(作曲)



本日の演奏会の Web アンケートにご協力ください。



PROFILE



小貫岩夫 *Iwao Onuki* (指揮)

同志社大学神学部卒業。同志社グリークラブに所属し、福永陽一郎指揮のもと数々のステージで活躍。その後大阪音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第11期修了。数々のコンクールで優勝・入選する。95年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演しデビュー。翌年ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場より招聘を受け同役で出演する。98年より文化庁派遣でミラノへ留学。2000年新国立劇場デビューを飾ったのち、様々な舞台で活躍。2013年には天皇皇后両陛下(当時)御親覧のチャリティ・ボールで御前演奏を行い、お言葉を頂いた。二期会会員。



坂井美樹 *Miki Sakai* (指揮)

大阪音楽大学音楽学部声楽専攻首席卒業。同大学院オペラ研究室修了。1999年にイタリアミラノに留学。モーツァルト作曲オペラ「フィガロの結婚」のスザンナ役の他、様々なオペラに出演。特に故岩城宏之指揮、黛敏郎作曲のオペラ「金閣寺」(女役)は東京・大阪で公演され、全国放映された。また桂小米朝(現5代目米團治)とともにオペらくごにも出演。その他多くのオペラやコンサートに出演。細川維、高須礼子、田原祥一郎、ブルーノ・ダル・モンテ、ピアンカ・マリア・カゾーニ、田中千都子、マウロ・アウレーリオの各氏に師事。二期会準会員。



多田聡子 *Satoko Tada* (ピアノ)

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中より器楽・声楽を問わず内外の著名な演奏家と共演を重ね、卒業年度より同大学声楽科にて伴奏助手を務める。宮内庁主催皇居桃華楽堂御前演奏会に出演。ジャンルにとらわれないユニークな演奏活動では「X-JAPAN」YOSHIKIのピアノを個人指導し、NHKホール、日本武道館、東京ドームにて共演。ソリストを支える共演者として特に声楽の分野で定評があり、テノール小貫岩夫のリサイタルでも度々共演。東京藝術大学非常勤講師。



後藤繁榮 *Shigeyoshi Goto* (MC)

フリーアナウンサー(元NHKエグゼクティブ・アナウンサー)。1975年NHK入局。鳥取、富山、札幌、東京アナウンス室を経てNHK放送研修センターで勤務。2016年フリーとなり、現在、NHK・Eテレ「きょうの料理」、ラジオ第1「ラジオ深夜便～第1、3、5土曜日」などを担当。また、NHK日本語センター専門委員、NHK文化センター講師としてよりよいコミュニケーションに資する講座も担当。2005年、放送批評懇談会の「ギャラクシー賞」奨励賞個人受賞。著書に『きょうの料理のヒミツ』平凡社、『後藤アナのダジャレ教室』(小学館)、ベスト新書『笑顔を引き出す会話力』(KKベストセラーズ)がある。

本日の出演者

Top Tenor

| | | | |
|---------------|--------------|--------------|---------------|
| 伊東 昭廣* (1967) | 西村 信勝 (1967) | 板村 哲也 (1969) | 小竹 正幸* (1971) |
| 五十嵐 強 (1979) | 永谷 勉 (1981) | 中平 悟 (1981) | 片瀨 明広 (1982) |
| 保川 一治 (1984) | | | |

Second Tenor

| | | | |
|--------------|--------------|---------------|---------------|
| 西沢 毅彦 (1963) | 赤城 一字 (1965) | 竹尾 彰 (1972) | 加藤 直樹* (1973) |
| 池田 民樹 (1975) | 勝原 尚実 (1976) | 杉本 啓一郎 (1980) | |

Baritone

| | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 新出 武雄 (1963) | 西川 哲朗 (1965) | 藤田 悟朗 (1967) | 飯塚 一雄 (1969) |
| 浜崎 慎吾 (1969) | 鵜飼 茂* (1971) | 岸本 保 (1979) | 松村 尚人 (1987) |

Bass

| | | | |
|---------------|--------------|--------------|---------------|
| 村主 寧民* (1963) | 大井 耐三 (1969) | 真鍋 一史 (1970) | 南 雄次 (1971) |
| 上崎 雅也 (1977) | 米野 勝 (1979) | 片川徳明* (1980) | 山内 清之* (1982) |
| 山口 伸 (1984) | | | |

カッコ内は卒業年度

卒業年度が同年の場合には「あいうえお順」で記載

*印は、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団(大阪あるいは名古屋)のメンバー

板村 (T1)、西澤 (T2)、竹尾 (T2)、新出 (B1) の4氏は欠場

♪ 一緒にハモりませんか ♪

毎月3回、練習をおこなっています。

私たちと一緒にハモりませんか。大阪外大グリークラブ出身者かどうかは問いません。

現在のメンバーにもOB以外の方々がいらっっしゃいます。

ご興味のある方は下記のメールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

gaigoglee@b01.itscom.net (大阪外国語大学グリークラブOB合唱団)



アンケートご協力をお願い

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。
今後の活動の参考とさせていただきたく、アンケートにご協力をお願いいたします。



こちらのQRコードからアクセスしていただくか、
下記のメールアドレス宛に「グリー」と表記して
メール送信していただくと、折り返しURLを
お知らせいたします。

glee.enquete@gmail.com

ジョイント・コンサートのお知らせ

本年(2022年)11月27日(日)に、大阪男声合唱団、甲陵会合唱団、関西大学グリークラブOB会EAST合唱団と
ジョイント・コンサート「コーラスの玉手箱」を予定しています。会場は川口リリアホールです。皆様のご来場をお待ちしております。